

寄せられた御意見とそれに対する市の考え方

令和3年11月16日から12月16日までの31日間、市民の皆さんから「第3期守谷市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）」に対する御意見を募集しました。

この期間、市民の皆さんから寄せられた御意見及び御意見に対する当市の考え方は次のとおりです。

◎P14 「生活困窮者に関すること」について

意見の要旨	件数	意見に対する市の考え
<p>① 子ども食堂は必ずしも生活困窮者支援の活動と位置付けられているわけではなく、孤食対策であり、生活困窮世帯の子ども「も」参加できるというのが実態である。子ども食堂と貧困対策を過度に結びつけることにより、貧困のレッテル貼りが加速し、生活困窮世帯に対する貧困の自認を強要することにもつながり、肝心な課題当事者が来にくくなってしまう懸念がある。表現を「子どもの貧困対策としては、子どもに対する学習支援などの事業についても検討する必要があります。また、子ども食堂などの食を通じた地域の居場所づくりも、その設立・運営支援を検討する必要があります。」としてはどうか。</p> <p>② 守谷市の現状と課題について、「子どもの貧困対策としては、子どもに対する学習支援や子ども食堂などの事業についても検討する必要があります。」とまとめているが、子ども食堂の役割は経済的事情だけではなく共働き等で孤食している子どもも一緒に食事できる場所を求めているのではないか。</p>	2	<p>① ②の意見 ◇計画案に反映させていただきます 御意見を踏まえ、子ども食堂と特定せずに、「子どもの貧困対策としては、子どもに対する学習支援や子ども食堂などの事業についても検討する必要があります。」を「子どもの貧困対策としては、子どもに対する学習支援や孤食対策などの事業についても検討する必要があります。」に改めます。</p>

◎ P 5 7 「子ども・子育て支援の推進（子ども食堂）」について

意見の要旨	件数	意見に対する市の考え
<p>① 子ども食堂の開設・運営主体は“市民、地域住民”を想定します。市の役割としては、「開設支援」と考えるが、いかがか。</p> <p>② 食堂の開設とあり市内全域に「子ども食堂」を開設し行き場を求めている子ども・保護者の集いの場として開設するだけでなく継続的支援が必要と考えます。</p> <p>③ 「一部のまちづくり協議会では、<u>家で一人で食事をしている子どもや経済的な事情で十分な食事がとれない子ども・・・</u>」との下線部分文言に懸念を抱きます。市の計画書への記載としては避けていただきたい表記と考えます。現在、守谷市で活動中の子ども食堂は、生活困窮家庭のみを対象とした取組ではなく、参加を希望する地域の子どもたちが楽しく（気軽に）集い、『食事と遊び等』を通じて地域の方々と温かな交流ができる居場所づくりを目指す取組です。“自分たちの事？・・と受け止める方々”が読んだ場合には自尊心を損ねる文言とも受け取られかねません。また、不快感を抱いて子ども食堂への参加を見合わせる行動に繋がる事も懸念します。一方で、「子ども食堂」の取組について十分な認識のない市民へは間違ったメッセージの発信となる可能性を懸念します。</p> <p>④ 「<u>すべての子どもやその保護者を対象に食事の提供を行うとともに・・・</u>」との下線部分は一部市民の誤解を生じることを懸念します。市民の中で、“すべての地域住民が利用できる食堂なのか！”と解釈されると様々な活動資源の不足が生じます。「地域の様々な人と交流する」ことを重視する取組であり、「食事の提供」の</p>	<p>6</p>	<p>① ②の意見 ◇計画案に反映させていただきます 子ども食堂の活動支援については、開設・運営支援の取組と考えておりましたが、事業名を子ども食堂の開設としていたことから、誤解が生じたものと思われまます。このため、事業名を「子ども食堂の開設・運営支援」に改めます。</p> <p>③ ④ ⑤の意見 ◇計画案に反映させていただきます 御意見を踏まえ、事業内容を「子どもの孤食や貧困問題を踏まえ、一部のまちづくり協議会では、地域の子どもたちが心豊かに成長できるように、食事と遊び等を通して、様々な世代の人と交流する居場所づくりを行ってまいります。今後、子ども食堂が市内全域に広がるように、各地区の「まちづくり協議会」の活動を継続して支援していきます。」に改めます。</p>

意見の要旨	件数	意見に対する市の考え
<p>みが際立つ活動内容の説明は避けて欲しい。</p> <p>⑤ 子ども食堂は必ずしも生活困窮者支援の活動と位置付けられているわけではなく、孤食対策であり、生活困窮世帯の子ども「も」参加できるというのが実態である。子ども食堂と貧困対策を過度に結びつけることにより、貧困のレッテル貼りが過度に進まないよう配慮すること、また多世代交流の側面をより強調すべきだと思えます。表現を「一部のまちづくり協議会では、家で一人で食事をしている子どもや経済的な事情で十分な食事がとれない子どもも含め、すべての子どもやその保護者を対象に食事の提供を行うとともに、様々な世代の人と交流する機会づくりを行っています。今後、子ども食堂が市内全域に広がるように、各地区の「まちづくり協議会」の活動を支援していきます。」としてはどうか。</p> <p>⑥ ぜひ、頑張っている団体のバックアップ・支援者の紹介や取次など企業との連携の場もお願いしたい。</p>		<p>⑥の意見</p> <p>◇子ども食堂の活動支援については、「各地区の「まちづくり協議会」の活動を支援していきます。」としており、その支援の中で、子ども食堂の活動を継続していけるように、活動団体の御意見も踏まえながら、「まちづくり協議会」と連携していくものとしておりますので、原案のとおりとさせていただきます。</p>

◎ P 6 8 「地域福祉の担い手と役割」について

意見の要旨	件数	意見に対する市の考え
<p>① 民間非営利の地域活動の担い手は、何も特定非営利活動法人に限定されるものではありません。任意団体の他にも、一般社団法人（非営利特化型）なども全国的にかなり数は増大しています。仮に守谷市内に現在一般社団法人数が少なくても、近隣の自治体に主たる事務所がある一般社団法人との協働の可能性も今後増えるものと思います。このため、NPO法人といった特定の法人格のみに言及するのではなく、「NPO等」とし、初めの注釈で一般社団法人なども含めて言及すべきと考えます。</p>	<p>1</p>	<p>◇計画案に反映させていただきます 御意見を踏まえ、「(4) ボランティア団体、NPO法人へのお願い」を「(4) ボランティア団体、NPO法人等へのお願い」に改め、注意書きの「NPO法人とは、利益追求のためではなく、社会的な使命を目指して活動する組織や団体で、かつ、「特定非営利活動促進法」に基づいて設立された法人です。」についても、「NPO法人等とは、利益追求のためではなく、社会的な使命を目指して活動する組織や団体で、「特定非営利活動促進法」に基づいて設立された法人や一般社団法人（非営利型）などです。」に改めます。</p>

◎その他

意見の要旨	件数	意見に対する市の考え
<p>① 保育士・子育て支援員に助成金を望みます。</p> <p>守谷市は保育園が増え、待機児童対策が進んでいますが、実際の保育現場はどこも人手不足、離職率も高く、本当に大変です。待機児童対策で保育園を増やす事ももちろん大切ですが、現場で働く保育士、子育て支援員の人達の事ももっと考えてほしいです。</p> <p>つくば市では、月額3万円の助成金事業が実施されており、現場の先生達は助成金が出るつくば市や、給料のいい柏の方の保育園で働く方がいいのではないか？という話しもよく聞きますので、切に要望します。</p> <p>② ひきこもり者がこれだけ増大し、社会課題となっている中、全く言及がないのは不自然に感じます。国が進める孤独・孤立対策に関しても、この文書の中では高齢者の社会的孤立の課題に限定して言及しています。より幅広い年代の社会的孤立当事者に対するアウトリーチが求められており、踏み込んだ言及と支援が必要です。</p>	<p>3</p>	<p>①の意見 ◇今後の保育士・子育て支援員施策の参考にさせていただきます。</p> <p>②の意見 ◇計画案に反映させていただきます</p> <p>「第2章 地域福祉を取り巻く現状の(2)健康・保健・食育に関すること」において、国や茨城県の動向の項目に、「社会全体のつながりが希薄化している中で、新型コロナの長期化によって、孤独・孤立の問題がより一層顕在化してきたことから、令和3年2月に孤独・孤立問題に取り組むため、内閣官房に孤独・孤立対策担当室が設置されました。」及び「茨城県ひきこもり相談支援センターでは、電話・来所(要予約)などにより、専門コーディネーターがひきこもり本人・家族への相談に応じ、適切な支援機関へつないでいます。また、ひきこもりの支援を行っている相談機関相互の連携を強化するために、支援者向け研修、支援者の情報交換会を開催しています。」を追記します。</p> <p>また、「第2章 地域福祉を取り巻く現状の(7)生活困窮者に関すること」において、守谷市の現状と課題の項目に、「ひきこもり生活により社会復帰が難しくなった人などに対しては、将来への不安感、自己喪失感や自己否定感を抱いている場合も少なくないため、そう</p>

<p>③ 守谷市内にも技能実習生などを含め、外国ルーツの住民が徐々に増えていると思いますし、その住民との多文化共生が課題になっています。これだけグローバル化が進み、外国ルーツの住民も増加する中で、潜在的な部分も含め、教育、福祉など様々な面で課題があり、今後も増大すると思います。中長期を見据えた本計画だからこそ、その視点が全くないのも不自然に思います。</p>	<p>した本人や家族の複雑な状況や心情等を理解し、丁寧に寄り添う対応をしていく必要があります。」を追記します。</p> <p>③の意見 ◇今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
--	--